



33

読みを深め合う
トロッコ

芥川 龍之介
あきたがわ りゅうのすけ

ねらい

- ① 人物の言動に着目して、心情の変化を捉えよう。
② 情景描写と場面の展開を捉え、表現の効果について考えよう。

ウォーミングアップ



読解の道しるべ

場面展開と情景描写からわかる心情に注意して読もう。

現在	回想					
場面7	場面6	場面5	場面4	場面3	場面2	場面1
生活に疲れた現在、あの薄暗いやぶや坂のある道が思い出される。 (二十六歳の現在の良平)	家の門口に駆け込み、良平は大声で泣き続けた。 (家に着き、不安から解放される)	良平は草履も羽織も脱ぎ捨てて、暗くなる一方の道を走り続ける。 (家を目指して必死に走り続ける)	トロッコの行程に従い、不安といらだちをつのらせる。 西日の光が消えかかる頃、一人で帰らなければならないことを知り、帰り道の遠さに絶望し、泣きそうになりながら走り出す。	十日余り後、別の土工たちに手伝いを許され、トロッコを押したり乗ったりして楽しむが、海を見て、あまりに遠く来すぎたことに気づく。	二月初旬、良平は初めてトロッコに乗った。しかし、土工に見つかり、どなられる。 (初めてトロッコに乗った喜びと叱られた記憶)	八つの良平は、毎日、村外れへトロッコを見物に行った。 (トロッコへのあこがれ)

「読解の道しるべ」を参考にして書こう。

この小説は、家族をもち、東京で働く
きに体験した
いう回想の形式で書かれている。

にまつわる出来事を思い出すという

が、のと

漢字・語句を確認しよう。

1 線の読み仮名を書きなさい。

- ① 砂利を運搬する。
② 眺めのいい席に座る。
③ 薄明るい時間に帰る。
④ 教室の端に机を寄せる。
⑤ 期待に胸が躍る。
⑥ 色彩の組み合わせを考える。
⑦ 一度の勝利で有頂天になる。
⑧ 野良猫が悠々と歩く。
⑨ 間違いを取り繕う。
⑩ 緩い傾斜の坂道を登る。
⑪ 石ころを蹴って歩く。
⑫ 辛い気持ちを紛らわせる。
⑬ 薄暮のなか家路を急ぐ。
⑭ 乳飲み子の面倒を見る。

2 線の片仮名を漢字で書きなさい。

- ① 八月のシヨジュンに旅行する。 □② 靴底くつぞこのドロを落とす。
- ③ 急なコウバイの道を走る。 □④ 向かい風に押しモドされる。
- ⑤ 氷水を恐る恐るサワる。 □⑥ 麦わらボウにリボンをつける。
- ⑦ シカられた弟をなぐさめる。 □⑧ イクつもの失敗を糧かてにする。
- ⑨ レイタンな笑みを浮かべる。 □⑩ 桜がサク頃に再会する。
- ⑪ ツかれてぐっすり眠るねむ。 □⑫ 読みかけの本に紙をハサむ。
- ⑬ ムガムチュウで説得する。 □⑭ 家のカドグチで立ち話をする。

3 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の——線部の語句の意味を答えなさい。

□① 優勝の喜びに有頂天うてふてんになっている。

□② つま先上つまさきがりの道の途中とちゅうで立ち止まる。

□③ 結論が出るまで話し合いを断続する。

(2) 次の語句の使い方が正しいものをあとから一つ選び、記号で答えなさい。

□① おもむろに

ア 風邪かぜをひいたので、おもむろに病院へ行った。

イ 雨は降ったが、おもむろに傘かさを持っていなかった。

ウ おもむろに気に入った服が一着もなかった。

エ 一同を見回しておもむろに口を開いた。

□② 取ってつけたよう

ア 取ってつけたような事件が起こった。

イ 取ってつけたような言い訳は無用だ。

ウ 取ってつけたような雨が降ってきた。

エ 取ってつけたような食事をした。

(3) 次の——線部の語句と似た意味の言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

□① 彼の冷淡な態度に腹を立てる。

ア なげやり イ つめたい

ウ 横柄おうへい エ 消極的

□② 門前で私はしばらくたたずんでいた。

ア ひと休みして イ じっと立ち止まって

ウ 座りこんで エ しばらく中断して

□③ 動物はなんでも好きだが、猫は殊ことに好きだといえる。

ア 正直 イ 全く

ウ 特に エ ほどほど

□④ 知らない人におずおず声を掛けた。

ア 恐る恐る イ 押し合いへし合い

ウ きっぱり エ 未練がましく



練習問題 1

教科書
P. 170
Q. 18
P. 173
Q. 9

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20

15

10

5

□ (1)

——線①「このトロッコ」とは、どのトロッコを指していますか。文中から書き抜きなさい。

(2)

——線②「二人とも若い男だった」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ 良平は二人にどんな印象を持ちましたか。文中から二つ、六字と三字で、書き抜きなさい。

□ (6字)

□ (3字)

Ⅱ 二人がどんな男かを、外見の面から述べている部分を文中から二つ探し、書き抜きなさい。

□ □

□ □

□ (3)

——線③「とうとうこらえきれずに」とありますが、このときの良平の気持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア いつまでも押していられるように、登り道が続けばいい。

イ 押すのに疲れてきたから、早くトロッコに乗りたい。

ウ いつまでも押していたいが、「もういい」といつ言われるかが心配だ。

エ 土工たちは黙ったままだが、おこっているのだろうか。 ()

□ (4)

——線④「線路はもう一度急勾配になった」ことは、このときの良平にとってどんな意味を持ちますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

(芥川龍之介『トロッコ』)

40 35 30 25

ア 良平が土工たちの役に立つ存在となる。

イ 良平の力ではどうにもならなくなる。

ウ 良平が土工たちの足手まといになる。

エ 良平が自分の家からどんどん遠ざかることになる。

()

□(5)

——線⑤「両側のみかん畑に、黄色い実が幾つも目を受けている」とありますが、この表現から受ける印象として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 明るさ イ のどかさ

ウ わびしさ エ せつなさ

()

□(6)

——線⑥「全身でトロッコを押すようにした」とありますが、このときの良平の気持ちを三十字以内で書きなさい。

(7)

——線⑦「余り遠く来すぎたことが、急にはつきりと感じられた」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

□Ⅰ 何を見たときに、このように感じたのですか。文中から五字で書き抜きなさい。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

□Ⅱ このときの良平の心情として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア うれしい イ 心細い

ウ 味気ない エ つまらない

()

練習問題 2

教科書

P.
172
l.
18
S
P.
174
l.
12

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20

15

10

5

(2) — 線②「良平は一人いらしながら」について、次のⅠ・Ⅱに答えな
よ。

□Ⅰ 良平はなぜいらいらしたのですか。その理由を四十五字以内で書きなさい。

□Ⅱ 良平のいらいらが、土工への態度として表れているところがあります。

その態度について述べた次の文の□に入る言葉を文中から書き抜きなさい。

土工が良平に

をくれたとき、

お

礼を言つた。

□(3) — 線③「心は他のことを考えていた」とありますが、例えばどのように考えていたのですか。文中から十二字で書き抜きなさい。

[illegible]

□
(1)

線①「おもしろい気持ちにはなれなかった」のは、なぜですか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア とても長い時間トロッコを押し続けてきたので、もうあきてしまったから。

イ 遠くへ来てしまった不安が大きく、早く帰りたい気持ちでいっぱいだったから。

ウ トロッコを押し始めた頃に比べると、土工たちが親切ではなくなったから。

エ 美しい景色に目を奪われ、トロッコのことなどもうどうでもよくなったから。

()

著作権の関係で見本PDFでは表示していません。

(芥川龍之介のすけ
『トロッコ』)

30

25

□
(5)

線⑤「むぞうさに」を良平の立場から言い換えたものとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。

ア 良平がトロッコを押し続けて遠くまで行きたいと思っていることにも気づかないで

イ 良平がたった一人で来た道を帰ることなど、大したことではないかのよう

ウ 良平が二人を手伝ってトロッコを押したことなど、なんの役にも立たなかったとも言うように

エ 良平が二人のことを外でずっと待っていたことを、当然のことだとも言うように

()

(4)

線④「茶店の前には……消えかかっている」について、次のⅠ・Ⅱに答えなさい。

Ⅰ 西日の光が消えかかっているのを見て、落ち着かない良平はどんなことをしましたか。二つに分けて書きなさい。

□
Ⅱ

線④は視覚に訴える表現ですが、文中には嗅覚に訴える表現もあります。それを一文で探し、その初めと終わりの四字を書き抜きなさい。

定期テスト対策

教科書
P. 168
～
P. 179

実施時間のめやす ↓ 20分

得点
／ 100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

著作権の関係で見本 PDF では表示していません。

20 15 10 5

□
(1)

—— 線①「あっけにとられた」とあることから、良平が今までどんなつもりでいたことがわかりますか。二十字以内で書きなさい。(15点)

(芥川龍之介のすけ
『トロッコ』)

40 35 30 25

チャレンジしてみよう

□(2) 線②「泣いてもしかたがないと……思った」ときの良平の気持ちの説
明として最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 期待を裏切られてがっかりしている。

イ 無事に家に帰れるだろうかと不安になっている。

一人で帰るしかない^{かくこ}と覚悟を決めている。

工 これまでの自分の行動を反省している。

線③「懐の……脱ぎ捨ててしまった」とありますが、ここからわかる

こととして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 良平が、自分の身に起きていることにまったく気づいていないこと。

イ 良平が、今日一日のいまわしい出来事を忘れようとしていること。

ウ 良平が、一刻も早く家に帰り着くことを最優先に考えていること。

工 良平が土工たちをうらみに思い、悔^{くや}しさを物にぶつけていること。

□(4) — 線④ 「左に海を感じながら」という表現から、良平のどんな様子がわか

りますか。最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 海の見えるところまで来たことで、少しほっとしている様子。

イ海を見る余裕などなく、ひたすら前を見て走り続けている様子。

ウ 海を見つめることで、泣きたくなる自分の気持ちをなぐさめている様子。

工場の見える場所を確認しながら慎重に帰り道を走っている様子。

□(5) — 線⑤ 「そのときも……とうとう泣かずに駆け続けた」 ときの良平の気

持ちとして最も適切なものを次のうちから選び、記号で答えなさい。(10点)

ア 誰もいないところで泣いても助けてもらえない。

イ まだ家に着いたわけではないから、走り続けなくてはならない。

泣いたら二度とトロッコに乗れなくなってしまう。

工村の近くで泣くと、人に見られて恥ずかしい。

線⑥「良平はとうとう大声に、わつと泣きださずにはいらなかった」

とありますが、それはなぜですか。二十字以内で書きなさい。(15点)

2 次の——線の読み仮名を平仮名で、片仮名を漢字で書きなさい。(3点×10)

□① 我が道を行く。

（

）□② 乳飲み子。

（

）

☐ ③ 地面を蹴る。
 ()
 () ☐ ④ 眺望のよい店。
 ()

□⑤ そつと触れる。() □⑥ ケイハクな行動。()

☐ ⑦ ことの発タン。 (☐ ⑧ カツヤクする。)

☐ ⑨ シュンの魚を買う。()
☐ ⑩ アワい色の服。()

思考・表現

『トロツコ』の最後に、現在の良平が「そのときの彼

を思い出すことがある」と書かれています。が、このときの良平の心情はどのようなものであるかとあなたは考えますか。五十文字以上八十文字以内であなたの考えを書きなさい。

[illegible][illegible]